

令和3年度学校自己評価システムシート(県立羽生実業高等学校)

目指す学校像 **確かな専門性と高い人間性を育む学校**

重点目標	1	基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着及びコミュニケーション力を育む授業の実践と生徒の主体的進路決定力を育成する進路指導を行う
	2	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る生徒指導を行う
	3	地域と連携・協働する開かれた学校づくりを推進し、産業人としての意識を醸成する

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	9名

学校自己評価								
年度目標			年度評価(2月1日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 本校には、多様な学力・進路希望の生徒が入学している。生徒、保護者の進路実現に対する期待は大きく、組織的、計画的な進路指導で、希望の進路に結びついている。</p> <p>【課題】 生徒の実態を把握し、一人一人に寄り添った指導を行うとともに、専門高校の特性を活かし、自発的な学習態度を育成させる。また、学校生活全体をとおして、コミュニケーション力、思考力、判断力、表現力等を育み、希望進路の実現を図る。</p>	<p>学力向上に向けた授業改善と自発的な学習態度の育成</p> <p>一人一人の生徒に寄り添った希望進路の実現</p>	<p>①授業規律を徹底するとともに、アクティブラーニング、グループディスカッション等取り入れた授業を行う。</p> <p>②未来の職業人材育成事業を活用した体験的・実践的な教育を充実させる。</p> <p>③資格取得を推奨し、高度な資格の補習等の指導を充実する。</p>	<p>①授業アンケートによる授業満足度が向上したか。</p> <p>②授業に意欲的・積極的に取り組む生徒の割合が向上したか。</p> <p>③埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)や各種資格取得者が増加したか。</p>	<p>①授業の授業満足度82%、教職員の自己評価は71%であった。コロナ禍による制限の中、ICT機器を活用した授業が実践された。</p> <p>②未来の職業人材育成事業の指定を受け、地元企業との商品開発や外部講師による実践的な授業(バッキングバスケット、そば打ち、洋菓子等)を行った。</p> <p>③埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)者数は、3年生35名、2年生21名が取得した。商業系1級4種目合格者は2名であった。</p>	<p>①進学希望者は、受験予定の生徒を除き95%が合格している。就職希望者は100%の内定である。第一希望での就職決定率は71%であった。</p> <p>②進路指導に対する満足度は、生徒88%、保護者92%であった。</p> <p>③農業系は農業大学校に2名が合格した。商業系は、5名が合格した。その他6名であった。</p>	B	<p>ICT機器を活用した授業は、学習効果が高いが機器等整備が不十分である。生徒・職員用端末の整備や校舎内アクセシビリティの増設等を行いICT教育を推進していく。</p> <p>自ら上位級にチャレンジする生徒を増やし、進路実現に繋げていく必要がある。関係部署と連携し丁寧な指導体制を構築する。</p>
2	<p>【現状】 「羽実生規律アップ努力目標」を掲げ、組織的な生徒指導を実施している。生徒の基本的生活習慣や規律ある態度も改善されてきている。特別活動では、部活動・農業クラブ等で、全国・県大会で活躍している。</p> <p>【課題】 組織的な生徒指導・生徒支援をとおして、規律ある態度を確立させ、社会が求める人格・人材育成を図る必要がある。また、学校行事や部活動等の特別活動を活性化させ、主体性やコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>基本的生活習慣確立とともに社会性を身につけるために「羽実生規律アップ努力目標」の組織的、継続的な指導での実施</p> <p>特別活動における生徒の主体性の促進</p>	<p>①行動規範を教室内に掲示するとともに、組織的な遅刻指導及び定期的な整容指導を行う。</p> <p>②放課後の定期的な市内巡回を行うとともに、自転車マナーアップ伝達講習会を行う。</p> <p>③外部のサポート(SC・SW)を活用した生徒支援を行う。</p>	<p>①生徒・保護者の本校生活指導の満足度が向上したか。遅刻者が減少したか。</p> <p>②生徒事故ゼロ、生徒指導件数が減少したか。</p> <p>③転・退学者が減少したか。</p>	<p>①生活指導の満足度は、生徒83%・保護者85%であった。段階的な遅刻指導やSCの活用により、遅刻者は減少した。</p> <p>②生徒事故・交通事故は0件であった。生徒指導件数は、20%減少した。</p> <p>③転学者の人数は変化がなかったが、退学者は約30%減少した。</p>	A	<p>生徒指導件数、退学者等は減少傾向にあるが、生徒支援的な取り組みを継続していく必要がある。生徒指導部・教育相談委員会を中心に、学年・SCと連携し、心身の健康や不登校等、生徒に寄り添った支援を行っていく。</p>	
3	<p>【現状】 商業と農業を併設する伝統校として、地域との関わりは深く、「羽実(はじつ)」と呼ばれ、地域に根ざした教育活動を展開している。しかし、地域の中学生の減少に伴い生徒募集に苦戦している。</p> <p>【課題】 地域の期待や信頼に応えるよう、さまざまな機会をとらえて、地域と連携・協働し、情報発信に努める必要がある。また、地域の中学生に本校の実践や専門学科の魅力をアピールし、目的意識の高い志願者を確保する必要がある。</p>	<p>地域関係機関との連携事業の推進</p> <p>情報発信の工夫と生徒募集定員の確保</p>	<p>①商業や農業に関する魅力ある公開講座を実施する。</p> <p>②地域との協同事業やイベントに積極的に参加する。</p> <p>③地域企業と連携した商品開発・事業連携を実施する。</p>	<p>①公開講座への参加者数やアンケート結果が向上したか。</p> <p>②地域との協同事業やイベントに主体的に生徒が参加したか。</p> <p>③商品開発ができたか。</p>	<p>①今年度はコロナ感染防止対応として、公開講座等実施を中止した。</p> <p>②羽生市主催のフラワーアレンジメント公開講座に4名がインストラクターとして参加予定であった。(コロナ禍により中止)</p> <p>③地元スーパーと連携し、生徒が考案したおにぎりの商品開発を行った。スマート農業では、養蜂とドローンを活用した農業を実践した。</p>	A	<p>商業・農業に関わる公開講座は実施できなかったが、行産学連携事業を実施することができた。行産学連携事業を学科による活動から学校全体の取り組みとして実施し、情報発信していく。</p>	
			<p>①入学志願者数が定員を確保できたか。</p> <p>②体験入学や学校説明会等への参加者数が増えたか。</p> <p>③全国産業教育フェアに多くの生徒が関わることができたか。</p>	<p>①入学希望者は、商業系32名(41%)、農業系51名(65%)であった。</p> <p>②体験入学2回、学校説明会2回、コロナ禍に対応しながら実施した。参加者は、昨年度より9%減少した。</p> <p>③コロナ禍によりWeb開催となり、多くの生徒が関わることができなかった。</p>	B	<p>広報部を中心に、中学校訪問や体験入学等を実施したが、中学生減少の中、募集定員数を満たすことができなかった。</p> <p>公式に取得したソーシャルメディア(Twitter、Instagram)の活用やスクールビュー(360°撮影)を活用してHPを充実させ、学校の魅力を伝え、志願者数を確保する。</p>		

学校関係者評価	
実施日	令和4年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>今やどの分野に進んでもICTは欠かせません。早期にハード面を整備し、生徒の学習意欲向上に繋げていただきたい。</p> <p>引続き進路希望の100%実現という更なる高みを目指し、基礎学力の向上、主体的な学習態度の育成を図り、適切なガイダンスなどを実施しながら、今後も目標達成に向けて効果的な方策を展開していただきたい。</p> <p>2年生より進路別コースの設置をして頂きたい。(進学コース、就職コース、専門コース)</p> <p>商品開発や外部講師による実践的な授業を継続し、地域との交流を深め、情報発信していただきたい。</p>	
<p>コロナ禍の制限下で、不登校につながるケースが増加すると考えられる。生徒指導・支援に更に力を入れていただきたい。</p> <p>生徒指導件数の減少や全国大会等での上位入賞を達成できたことは素晴らしい。今後とも生徒が主体性やコミュニケーション力を身に付け、社会が求める人格・人材へと成長できるよう生徒支援や特別活動の充実等に取り組んでいただきたい。</p> <p>即売会を通して消費者がどのような商品(農産物)を望んでいるかを消費者から聞き、この消費者の声が届くような作物の栽培が大事である。(アンケートの実施)</p>	
<p>市のイベント参加やふるさと納税返礼品の協力、地元企業とのコラボによる商品開発、養蜂やスマート農業の取組等、十分な地域貢献や新たな展開がなされていると思う。今後は、商業と農業の伝統校として、貴校の強みでもある行産学連携事業や公開講座をはじめとする地域連携や協同事業を引き続き展開していただきたい。</p> <p>農業の楽しさと共に農業で稼げることを知るために全国の優良経営者に直接会って実際に感じて欲しい。</p> <p>産業教育において、IT時代に適応できるような学習を取り入れる必要がある。</p>	